

辛亥革命100周年に際して

京都大学が東京・品川の「京大東京オフィス」で開く連続講座「東京で学ぶ 京大の知」(朝日新聞社後援)のシリーズ6「中国学研究最前線」。最終回の2月29日は、辛亥革命の立役者、孫文と革命の本質について考えるのがテーマだ。京都大学人間・環境学研究科の江田憲治教授(中国近現代史)が「辛亥革命100周年に際して」と題して講演し、孫文や革命の意外な素顔から現代中国が辛亥革命をどうとらえているかまでを解き明かした。



語るほどに熱が入っていった江田憲治教授の講演。
背景のスライドは、辛亥革命100周年を記念して中国で開かれたシンポジウムの様子

●歴史学者は映画を楽しめない

辛亥革命が起こったのは1911(辛亥)年10月10日のことだ。100周年にあたる昨年、ジャッキー・チェン総監督・主演の映画「1911」が日本でも公開された。

江田憲治教授は、まず、辛亥革命を描いたこの映画に登場する歴史上の人物たちの写真をスライドで映した。孫文(1866~1925)や黄興(1874~1916)らだ。

江田教授はスライドに近づくと黄興を指した。「こちらがジャッキー・チェン扮する黄興です。辛亥革命の軍事指導者でした。こちらの孫文は資金集めと政治理念担当です。このふたりが革命を引っ張ってきたので、この映画の描き方は間違っていないでしょう」

もっとも教授は映画を一部しか見ていないという。「歴史学者は、間違っているところばかり目について楽しめないのでから」。聴衆たちが笑った。

さて、辛亥革命である。

20世紀はじめ、中国(当時は清)は危機的な状況にあった。

アヘン戦争(1840~1842)に敗れ、列強各国の「半植民地」状態に陥っていた清は1895年、日清戦争にも敗れる。さらに、その後の義和団戦争(1900~1901)でも、日・英・米・露など8カ国に敗れた。清は、あとのふたつの敗戦で政府歳入の約10倍にあたる7億6000万両もの賠償金を負担させられた。

一部知識人は、国難を打開するためには清朝打倒が先決だとして革命運動を始めた。その指導者が、広東省出身の孫文だった。

●武装蜂起は10戦全敗

「孫文は、科挙の試験に合格して官僚になり金儲けする、という旧来の知識人とは違いました。ハワイで初等中等教育を受けて香港で医学を勉強し、西洋文明の知識をもとに国や民族を救うことを考えた新しいタイプの知識人です」

一方、清朝も1905年に科挙を廃止し、その結果、日本への留学生も増えた。彼らはやがて、革命運動に参加する。そのひとりに章炳麟(1869~1936)がいた。江田教授でさえ読むのに苦労する難解な文章を書く学者で、民族主義者でもあった。スライドの写真では和服を着ている。「なぜか？ 実は和服は昔の中国服を日本人が倣ったものなのです。だから、章炳麟にとって和服はうれしいのです」

章炳麟は辛亥革命の宣伝担当で、孫文、黄興と並び革命の「三尊」と呼ばれる。

1905年、孫文や章炳麟らは東京で中国同盟会を設立した。党首(総理)は孫文。同盟会は、海外から武器弾薬を調達し、孫文の指導の下に中国南部の沿海地区で10回も武装蜂起を行う。だが全て失敗し、同盟会は分裂状態になった。

事態を切り開いたのが、日本への留学生で同盟会内では反孫文派の宋教仁(1882~1913)のグループだった。1911年10月10日、彼らは、揚子江と鉄道が交わる交通の要衝、武昌(現在は武漢、湖北省)で武装蜂起に成功。そして、湖北省は清朝から“独立”した。

その後、他の省も続々と清朝からの“独立”を宣言し、2カ月後には中国本土18省のうち3分の2が革命政権の手に落ちた。背景には、近代化を図って清朝が導入した地方議会に、打倒清朝を目指す地域エリートが集まっていたという事情もある。

●肝心なときに「いない」人

実はこの間、孫文は中国にいなかった。「肝心なときにいない人です。アメリカのデンバーにいたのです」。12月によやく帰国すると、孫文は革命政権の臨時大総統(大統領)に就任。翌年1月1日、南京で「中華民国」を設立した。

一方、清朝は、強大な軍事力を持つ総理大臣の袁世凱(1859~1916)が革命政権に圧力をかけてきた。2月に孫文は、清朝皇帝の退位を条件に臨時大総統の地位を袁世凱に譲る。その後の国政選挙では孫文派が勝ったが、袁世凱は宋教仁を暗殺すると、独裁政権を築いた。「だから辛亥革命は『挫折した革命』と呼ばれています」

江田教授の指摘を整理すると、英雄とは違う孫文の顔が見える。「三民主義」(民族、民権、民生)を唱えた理論的な柱でこそあれ、それ以外では、武装蜂起は失敗の連続、革命勃発時は米国に滞在、袁世凱には政治でも武力でも屈している。さらに、中国内の少数民族への配慮も当初はなかった。また打倒袁世凱のため、日本側に大幅な利権を認める「日中盟約」に署名し(起草は日本海軍の秋山真之)、日本から今の金額で約100億円の資金を得たという。

「孫文は全くの理想的な存在ではないのです」

●中国共産党はなぜ孫文を讃えるのか

しかし、一般に流布している孫文像は違う。なぜか。

「孫文の後継者の蒋介石が 1928 年に中国を統一しました。蒋介石は、偉大な孫文という歴史を記述します。歴史は勝者の記述です。台湾では今も、孫文は国父です」

では中国は、辛亥革命をどう見ているか。

中国では辛亥革命 50 周年の 1961 年以降、10 年ごとに記念のシンポジウムが開かれている(文化大革命中の 1971 年を除く)。「そこには政治的な意図があります。中国政府は、辛亥革命の限界を克服したのが中国共産党の革命、と位置づけたいのです。前者を高く評価すれば、後者をより高く評価することにつながります」

2001 年、辛亥革命 90 周年の記念式典で、江沢民・中国共産党総書記(当時)は、孫文を「中国民主革命の偉大な先駆者」と讃えた。昨年の 100 周年記念式典でも、胡錦濤総書記が同様の演説を行っている。

江沢民の演説で江田教授が注目したのは、辛亥革命をかつてのように「ブルジョア民主主義革命(中国語では資産階級民主革命)」と定義せず、「民族民主革命」と新たに定義したことだ。「階級」の文字が消えた。



熱心に耳を傾けていた受講者たち。講演終了後も質問が続いた

「『民族』と『民主』は、今の中国の課題です。孫文たちは、政権の基本法をつくる時、少数民族にも漢民族と同じ権利を与えました。ナショナリズムと同時にデモクラシーを追求したのです。デモクラシーの発展は、狭いナショナリズムを克服する回路になる。これこそ、私たちが見直すべきことではないでしょうか」

江田教授はこう力を込めて、講演を終えた。

(※原稿及びクレジット未記載の写真は朝日新聞社提供)